

Brasil cafe sendai presents
クロスカルチャーイベントvol.2

「たべる」ブラジル文学

作家・ジョルジI・アマードの代表作

『丁子と肉桂のガブリエラ』 Gabriela, cravo e canela

作品の舞台・ブラジル・バイーア州の郷土料理
moqueca(ムケッカ) とmanjar branco(マンジャール
ブランコ) を食しながら作品世界を掘り下げます。

■ジョルジ・アマード(1912~2001)は、ブラジル・バイーア州南部イタブーナ市のカカオ農園で生まれる。処女作『カーニバルの国』に次ぐ『カカオ』で認められ、国民作家としての地位を占め、常にノーベル賞候補になる。主な著書に『果てなき大地』、『砂の戦士たち』等。邦訳書も多い。



丁子と肉桂のガブリエラ



5月31日(金) 19:00~

右岸の羊座

仙台市若林区南小泉4-1-11

*若林区役所、若林図書館・文化センターから徒歩5分、駐車場3台有り

主催：ブラジルカフェ仙台

<http://valeria-cafe.com>

E-mail valeriaharue@yahoo.co.jp

共催・問い合わせ 右岸の羊座

TEL022 (353) 9071

www.hitsuji.info

料金 2000円(食事代を含む)

講師
大槻ヴァレリア・ハルエ



ブラジル・サンパウロ市生まれ、31歳まで生活。1995年、東北大学歯学部小児歯科で技術研修のために来日。1997年に結婚、仙台での生活が始まる。2000年よりポルトガル語講師。ブラジル文化の紹介、講演会、国際交流イベント、多文化共生プログラムに参加。2009年からはブラジルカフェ仙台として、料理教室やアーティストとのコラボ企画を展開、ブラジルのイベントを楽しむプランニングを提供。震災後、ブラジルの詩を仙台市内の仮設住宅で紹介する活動や、仙台国際交流協会のラジオ多言語放送局の番組に参加する。昨年からは日本人移民たちがブラジルで歌った「日本のうた」の研究を始める。